



ウクライナ戦時下における ソーシャルワーク実践と教育のニーズと対応



オクサナ・ボイコ博士

ウクライナ国立キーウ大学准教授・
ソーシャルワーク学士課程主任・社会福祉学科長

2022年11月12日



ウクライナにおけるソーシャルワーク 教育と実践

- ウクライナでは、専門職としてのソーシャルワークはソビエト連邦崩壊後の1990年代前半に確立したが、この当時、中央計画経済から市場志向型の経済への移行、薬物・アルコール乱用の急増、精神衛生上の問題、HIV/エイズなどを経験した。
- ウクライナでは、1995年に初のソーシャルワークの修士課程プログラムがEU Tempus Tacisプロジェクトの一環として始まり（SSW NaUKMA）、続いてEU、英国、米国、カナダなどのプロジェクトの支援を受け、ウクライナ各地でソーシャルワーク教育者、従事者、研究者が養成された。
- 1999年から現在まで：社会が階層化する状況下でのソーシャルワークの学問化と専門職化、政治活動の団結不足（社会的ケアの改革など）、国際基準のあいまいで限定的な影響、社会政治レトリックなど（Boyko&Semygina, 2014）。



ソーシャルワーク教育の現状

- 1) 大学教育・養成：ソーシャルワークの学士と修士（1995年より）、博士（2016年より）。プログラムは、ウクライナ各地の60を超える大学において、ウクライナ教育省より認定されている。
- 2) 大学以外での養成：さまざまな機関（慈善団体、NGO、国際機関、国連機関など）が提供。政府の管轄機関や国内専門家団体による資格授与はない。
 - 教育基準は、最近、ウクライナ教育科学省が開発・承認した。
 - 専門職としての基準：一部は承認済みで、それ以外はそれぞれの職種について現在開発中。

現状における課題

- ロシアによるウクライナ侵攻(2014年に始まり、2022年2月24日に第2段階に入った)
- ロシアのプロパガンダが世界中で展開しているハイブリッド戦争の典型:
「言語問題」、ウクライナのナチ、ウクライナを「下位の国」とか「存在しない」、「かつて存在したことがない」、「存在する権利がない」国だと言いつのる。。。
- ウクライナ戦争に対するソーシャルワーク専門家コミュニティの対応:
 - 理解:「ウクライナでの武力紛争」、「ウクライナ紛争／問題／課題」か、それとも「戦争」か
 - 対応:
 - 集団の責任か個人の責任か(「私はあなたをどう支援できるか」対「これは私の戦争ではない」)
 - 「良い避難民か悪い避難民か？」
 - 「ソーシャルワーク学校連盟によるウクライナソーシャルワーク教育者との連帯と支援」:
EEsrASSW、EASSW、IASSWのイニシアティブ
 - 詳細は: <https://socialworldpodcast.com/episodes/> (#127).



ソーシャルワーク実践の課題



- 膨大な人数の国内避難民: 700万人(人口の6分の1)
- 多くの人びとが戦争から逃れ、いつ戻れるのか分からない
- 住居が破壊され失業率が高いため(30%)、対処すべきニーズが膨大
- ニーズに対処するのにさまざまなサービスを提供。重視するのは、人道的支援(食料、避難所、日用品)
- 医療／社会サービス／食料／避難所にアクセスできない。とりわけ、もっとも弱い立場にある人々(緩和ケアの患者、精神衛生の問題や障害を抱えた人など)
- 多くの子どもが孤児になりケアを受けていない
- 国内避難者、戦争にもかかわらず自宅に留まる人々、国外避難民: 社会的一体性の課題
- ソーシャルワーク従事者を要請するニーズ: 準備ができているか否か
- トラウマを共有するという状況下での仕事: 国中で戦争と恐怖が続く中でソーシャルワークを実践
- 膨大な人道上的ニーズがあり、一方でこれに対処するソーシャルワーク従事者が不足
- ソーシャルワーク従事者の燃え尽き率が高い

ソーシャルワーク従事者養成のニーズ

- 精神面の救急手当て: 困難な状況を生きる個人と家族
- 自分と周りの人たちがパニックに陥らないための方策
- 戦時下で性的虐待を受けた女性や子どもに対処する専門テクニック、方法、実践
- 戦時下で高齢者に対処するソーシャルワーク(在宅介護と施設ケア)、および障害者に対処するソーシャルワークおよびソーシャルメンテナンス
- 戦時下で困難な状況を生きる人びとを対象にソーシャルワーク・サービスに取り組む機関
- クライアントの自死願望防止
- ソーシャルワーカーの管理

- 食器棚さん、お元気？
- まあ何とか持ちこたえています😊



がんばろう この食器棚のように



ソーシャルワークを学ぶ学生と教育者の課題

- コロナ禍に続いて戦争：社会的孤立と社会的一体性
- ソーシャルディスタンス／オンライン教育と対面教育
- トラウマの共有：ミサイル攻撃、爆撃、占領、ロシア軍による恐怖の下での生活
- 自分自身、家族、ソーシャルワークのクライアントに、同時に配慮する必要
- 学生も教育者も戦争から逃げることを余儀なくされた避難民／国内避難者であり、その多くはそれまで住んでいた市や町以外で生活
- 学生／教育者であるだけでなくさまざまな役割がある：ボランティア、資金調達者、プロモーター、「ストップ・フェイク(フェイクはやめろ)」活動家、避難民、国内避難者、兵士など
- さまざまな重症度の精神衛生上の問題：関与と対処
- 指導・学習環境：電気、水、暖房、住居の不足

ソーシャルワークを学ぶ学生と教育者の課題(2)

教育者:

- 自分自身、家族、仕事、学生に配慮する必要
- 指導・養成の計画／実施に集中するのが困難
- 大学教育フォーマットの見直し: 同期型式から非同期型式へ: 追加的業務の増加、戦争の苦難に対処する一方で創造性を発揮する必要
- それでも大学教育の要件すべてを満たさねばならない(次年度学生の入学、最終資格試験、学士・修士論文など)

学生

- 精神衛生上の問題(強い不安、落ち着きのなさ、睡眠障害、抑うつ)、集中力の欠如、学習困難など
- 勉強と仕事を両立させ、ほとんどの時間を自分自身と外国にいる両親のための生活費稼ぎに充てる必要がある
- 勉強と授業参加が困難
- それでも大学教育の要件をすべて満たさねばならない

ニーズへの対応

- 学生と教師による、さまざまなイニシアティブ、ボランティア活動の創造と参加
- 提供するコースの一環としての、学生の心理教育
- コースのシラバスを見直し、戦時下でのソーシャルワークに関する追加的テーマを加える
- 指導・学習については柔軟に非同期的／同期的に行う
- 大学をコミュニティ支援構築の場として活用する。たとえば、リビウのカソリック大学が支援のハブに、UKMAソーシャルワーク・支援・適応センターが大学生を対象に
- 戦争避難者のためのコミュニティ「ハブ」を作る（「Me-マリウポル（私とマリウポル）」、「Me-ヘルソン（私とヘルソン）」）
- ソーシャルメディア・グループ（フェイスブック、インスタグラム、Viber、What's App、Signalの各グループ）：MHPSS（精神保健・心理社会的支援）、セルフヘルプ、相互扶助、照会、多様な支援、資金集め、コミュニティのネットワーキングと連携
- 学生、若者、成人を対象とするオンラインのセルフヘルプ・グループ
- 国際機関、国内の大学および民間組織によるソーシャルワーク従事者のための特別教育・ワークショップを、国内避難者との連携、緊急時の心理社会的支援、事例管理などに関して実施
- ソーシャルワーク従事者を対象とする緊急時の心理社会的支援に関する簡潔な検定書プログラムを確立



ニーズへの対応(2)

- **IASSW、EASSW、EAsrASSWによるイニシアティブ:ウクライナのソーシャルワーク教育機関のソーシャルワーク教育者との連帯・支援(ボランティア):コーディネーションとネットワーキング**
 - ウクライナ社会政策省と協力して、ソーシャルワーク従事者の養成ニーズ支援を確認し対応する(養成／専門知識のニーズについての合意、ネットワーキングの推進、戦時下のソーシャルワークの課題に関するワークショップを実施、性暴力被害者を対象とするソーシャルワークなど)
 - 教育・養成ニーズを満たすために、ウクライナのソーシャルワーク教育者・従事者とのネットワーク作り
 - ニーズを確認し、人材とアイデア、人材と資源などをマッチングさせる
 - ウクライナのソーシャルワーク団体を支援するための資金集め:ソ教連からの支援事例
- **日本ソーシャルワーク教育学校連盟の戦時下のソーシャルワークに関するプロジェクト(ウクライナのソーシャルワーク教育者、IASSW、EAsrASSW):ウクライナの状況から経験的証拠を収集、戦時下での高齢者・障害者を対象とするソーシャルワークに関する養成モジュールを開発**

ウクライナのソーシャルワーク団体を支援するための 資金集め：日本ソーシャルワーク教育学校連盟では

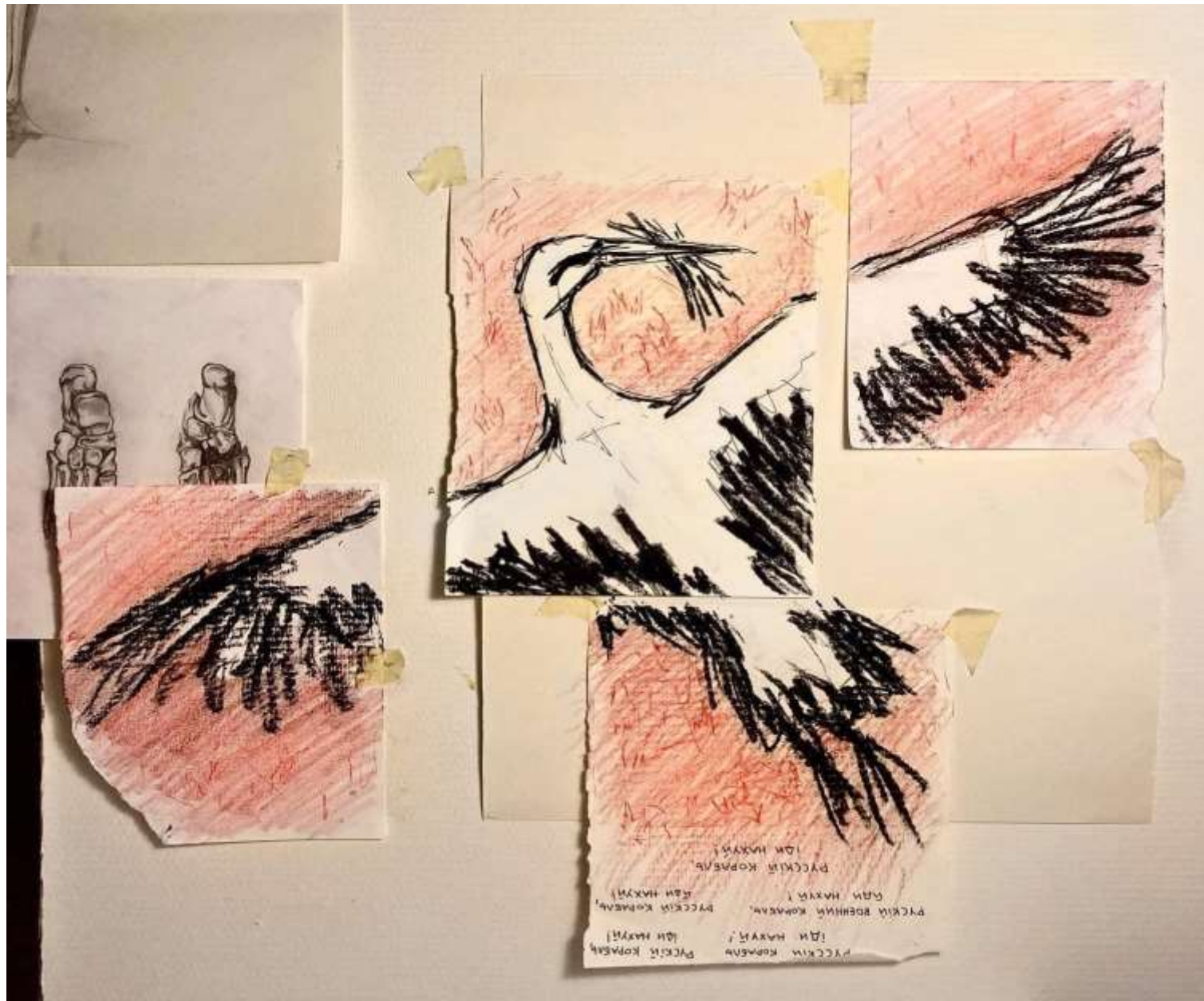
- 慈善団体「Slov`jansk Heart」：避難民、子ども、高齢者を対象とする人道的・社会的支援
- 慈善団体「Save Ukraine」：子ども、家族、障害者、高齢者を対象とする人道的・社会的・救助支援、国内避難者支援、事例管理







ウクライナでは、 コウノトリは家族・ 家庭のシンボル



@Kate Gresko





連絡先



Facebook: @SSW.NaUKMA (School of Social Work NaUKMA)



Oksana Boyko,
PhD in Social Work, Cand. of Ped. Sciences,
Associate Professor, Chair of the Department
the School of Social Work,
National University of Kyiv-Mohyla Academy
email: oksana.boyko@ukma.edu.ua